

印旛普及だより

第 22 号

〒285-0026 佐倉市鎗木仲田町8-1 TEL: 043-483-1128 FAX: 043-485-9502
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/apcenter/inba/>
発行: 印旛農業事務所 地域振興部改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

頑張っています

安い、売れない、天候が悪い
。農業経営に悩みはつきもの
です。

そんな悩みに負けるものかと、
知恵を絞り、前を向いて、家族
が協力して野菜栽培を続ける一
家を紹介します。努力の積み重
ねが、今の幸せを築いてきまし
た。支えたのはお母さんの底力
です。

白井市の芦田さん一家は、ご
主人の公輝さん、奥さんの恵子
さん、長男の貴裕さんの三人で、
一七〇アールの畑で野菜栽培を
し、個人で直売をしています。
野菜の輸入が増加した頃、まだ
市場出荷を行っていましたが価
格の暴落で経営はギリ貧になる
しかありませんでした。

湧き出た疑問

農産物の価格は誰が決める

の？私の作った野菜を誰が食べ
ているの？

「私にできることは何!!」恵子
さんは考えました。



直売所をやりたい

第一歩は平成一二年でした。
御主人の協力を得て、無人直売
所を開設し、市場出荷一辺倒の
販売に直売を加えました。十六
年には地域でも直売所を開設し
たので、そこに参加しましたが、

値引き競争に悩みました。この
頃には、直売経営で進もうとい
う家族での合意ができていまし
たが、人に委ねて販売する方法
では心のモヤモヤが晴れません。
「誇りを持って美味しい野菜
を作る。私の作った野菜の価値
を解ってほしい」という強い思
いがあったのです。

お客さんの居る場所で売ろう。
平成十八年九月「ほのぼの芦田
農園白井駅直売所」がオープン
しました。売り場面積6㎡の小
さなお店です。品目は一三〇種
類もあります。

いまでは「ただいま」「おかえ
りなさい」と声が飛び交います。
評判が伝わり都内の「こだわり
レストラン」との契約も増え、
新しい販売が始まっています。

恵子さんは一昨年千葉県指導
農業士に認証されました。若い
方に食と農への関心を持っても
らう活動をしたいと張り切って
います。

集落営農のすすめ!

集落内で耕作されなくなった農地が出てきたらどうする? など地域農業の課題に直面した時は、集落営農を考える時期にきています。

1 集落営農とは

「集落営農」は、国や各県によって様々に定義され、地域の実情に応じて展開されています。本県においても、集落営農を推進し、その目的は、『個々の農家では対応できない地域農業の問題を、集落みんなで力を合わせて解決すること』としています。

2 集落営農の実態について

二十二年度、県が行った実態調査では、県全体で約五〇〇の集落営農組織があることが報告されています。印旛管内では五十一の組織があり、このうち

二十二の組織が機械の共同所有に取組んでいます。

3 集落営農のメリット

(1) 農業生産面のメリット

- ・ 高効率な大型機械の導入で省力的に作業ができる。
- ・ 転作物用機械を整備して省力的に栽培ができ、収入が得られる。

耕作放棄地や農地荒廃がなくなる。

(2) 農家経済・生活面のメリット

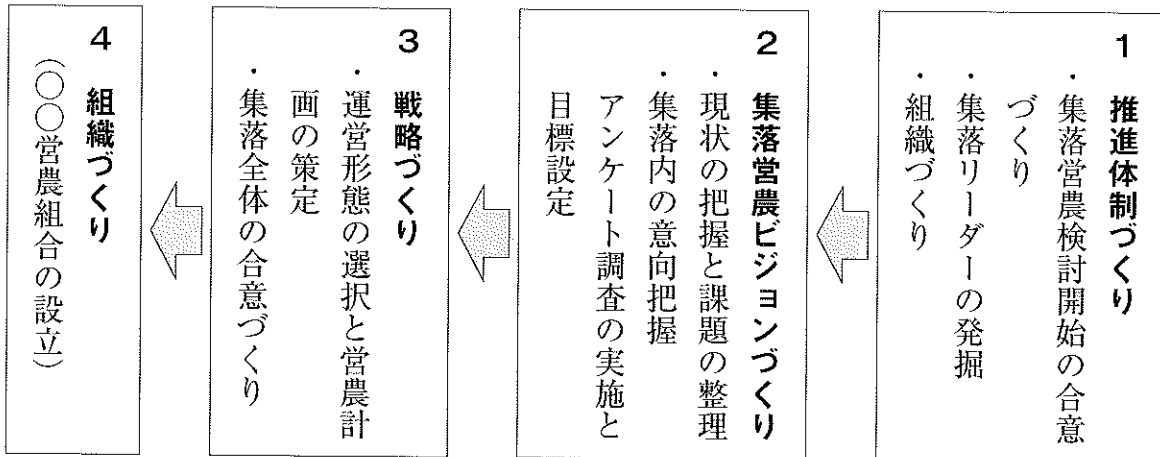
- ・ 機械更新などの大きな出費を心配しなくてよい。
- ・ 高齢者は将来の農地管理などを心配しなくてよい。
- ・ 生活にゆとりができる。

4 改良普及課の取組み

昨年度から、課内にプロジェクトチームの設置や集落営農責任者の配置を行い、関係機関・団体と連携しながら集落営農の支援強化に取組んでいます。

5 集落営農推進の流れと

主要ポイント事項



6 事例紹介

管内S地区の取組み中の概要を紹介します。

(1) 集落の目指す姿

『集落の水田は集落で守る』ことを目指しています。

(2) 『考える会』結成のきっかけ

集落の将来に危機をもった4名によるアンケート調査の実施がきっかけとなり、「集落営農を考える会」が一九九年に発足。

(3) これまでの主な取組み

- ① 集落営農体制検討のための検討会の開催
- ② 他地域の事例を学ぶ学習会の開催
- ③ ホールクロップサイレージ栽培に向けた効率的な土地利用調整の活動
- ④ 先進地視察の実施

(4) 今後の進め方の検討

6次産業化で、農産物の高付加価値化を

6次産業化とは

農業者自らや商工業者等と連携して農産物の生産（一次産業）、加工（二次産業）、流通・販売（三次産業）を一体的に行うことで、農産物の価値を高めたり、新たな価値を生み出すことです。このことを、一次×二次×三次の形態から、6次産業といえます。

今なぜ6次産業化なのか

農産物の価格低迷、生産コストの上昇により、所得は減少傾向にあります。この様な中、所得を向上させるには、生産物の付加価値を高める6次産業化が有効な手段と考えられるからです。

6次産業化を推進するために「6次産業化法」が、平成二十三年三月一日施行されました。

6次化に関する主な支援策

農 商 工 連 携	
対象者	農林漁業者と中小企業者の連携体
支援策	法に基づく認定を受けた事業計画の実施対にする支援（国）
主な支援内容	新商品開発等に対する経費の補助 政府系金融機関が設備資金等を優遇金利で融資 新事業開拓保証の限度額引き上げ設備投資減税

6 次 産 業 化	
対象者	農林漁業者等
支援策	法に基づく認定を受けた事業計画の実施に対する支援（国）
主な支援内容	無利子融資の貸付対象者拡大 農地転用の手続き簡素化 新品種の登録料減免

法に基づく事業計画の認定を受けた場合は、6次産業化プランナーによる計画づくりから実施まで、一貫した支援を受けることもできます。

また、県では農林水産部と商工労働部が連携して、農業者が中小企業者と連携したい場合に相手を探す支援も行っています。

印旛地域で支援策を活用している事例

6次産業化法の事業計画認定を受けている事例は、

① チーズ工房を新設し、自ら生産する生乳からチーズを製造し販売する。

② 甘藷若葉の栽培を行い、若葉入りの米粉パンなどを製造し、近郊のレストラン・道の駅等で販売する。

ちばの6次産業化チャレンジ支援事業を受けている事例は、米の加工を行うための機械導入と漬物用野菜の販売促進資材の作成があります。

頑張っています！ 農業経営体育成セミナー修了生

印西市将監 木村 聡史 さん

今回は、平成二十二年度に当
事務所主催の農業経営体育成セ
ミナーを修了した、印西市将監
の木村聡史さんを紹介します。

◎就農から現在まで

木村さんは、平成二十年に学
校を卒業すると同時に就農し、
その後、農業経営体育成セミ
ナーに参加しました。

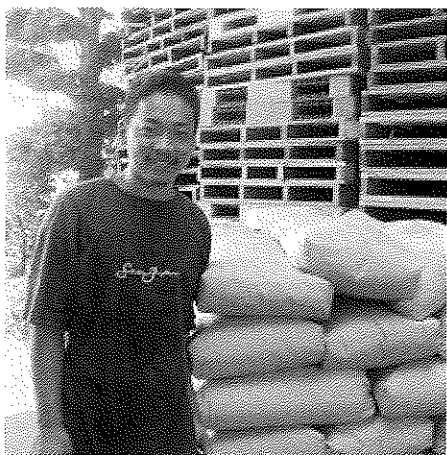
セミナーに参加した三年間は、
「多くの同年代の仲間と一緒に、
先輩農業者や普及指導員から幅
広い農業知識と専門的な技術を
教えてもらうことができ、営農
していく上で大変参考になっ
た」との感想を頂きました。

また、私生活の方では、平成
二十二年にご結婚され、公私共
に充実した日々を送っています。

◎経営の概要

木村さんは、受託を含めて約
十五ヘクタールの水田を管理し
ています。

また、自宅では、米の集出荷
業も営んでおり、木村さんは主
に取引業者への米の配達を任さ
れています。



配達先が千葉、東京、神奈川
と広範囲であるため、運転が大
変で、道を覚えることが悩みの

種だそうです。しかし、自分で
配達することで、取引業者から
直接経営に活かせる情報を得ら
れるという利点についても話し
てくれました。

◎経営の発展に向けて

木村さんは、三十ヘクタール
まで水田の規模拡大を目指すこ
とに加え、加工品の販売にも積
極的に取り組むことを、今後の
目標としています。

『現在の農業は、米の価格の
低迷や担い手の高齢化などの問
題を抱えているが、われわれ若
い世代の担い手が、農業を通じ
た地域活性化に取り組んでいく
ことが必要である。』と熱く語っ
てくれました。

結婚されてから、今まで以上
に仕事に熱が入ると話す木村さ
ん。印旛地域を担う青年農業者
として今後の活躍が大いに期待
されます。

お知らせ

千葉県農業大学校学生募集

一般入試

一 募集人員

A日程 農学科 約三十名

研究科 約十名

B日程 農学科 約十名

研究科 若干名

二 願書受付

A日程

平成二十三年十二月九日～

平成二十三年十二月二十二日

B日程

平成二十四年二月八日～

平成二十四年二月二十日

三 選考期日

A日程

平成二十四年一月十一日

B日程

平成二十四年三月九日

四 問合せ先

千葉県農業大学校

電話〇四七五(五二)五二二一